

# ○堺市子ども・子育て会議委員からのご意見及び対応方針について

分類	調査票	設問	ご意見	対応方針	修正・追加内容
選択肢の追加・修正	A調査 【就学前・小学生】	就学前 問6 小学生 問7	現実的に考えると、一日10分未満では家事は出来ず、ほぼしなくても30分はかかる。そのため全員が選択肢3の30分以上となり、アンケートの価値があるのか？と思う。 家事の時間 「1. 10分未満 2. 10～29分 3. 30分以上」を「1. 10～29分 2. 30分～59分 3. 1時間以上」としてはどうか。	前回調査（H30）では、母親の約95%が30分以上。父親は10分未満が約60%、10～29分が約20%、30分以上が約12%であった。 5年前からの父親の家事・育児参加がどのように変化したのかを見るため、10分未満の選択肢は残すが、30分～59分、1時間以上の選択肢を追加する。	家事・育児の時間を以下のとおり修正  1. 10分未満 2. 10～29分 3. 30分以上 ↓ 1. 10分未満 2. 10～29分 3. 30分～59分 4. 1時間以上
	A調査 【就学前・小学生】	就学前 問68 小学生 問39	住んでいる地域の状況について、子どもができてから何か変化を感じたか問うことについて、良い変化だけではなく、悪い変化も選択肢に入れるべき。 (騒音などで注意される、助けてもらえる人がいないと感じる、孤独を感じる)	ご意見をふまえ、選択肢を追加する。	選択肢に次の2項目を追加 「5. 地域の人から助けを得られないと思うようになった」 「6. 騒音等の苦情を受けることがあった」
	C調査	問29 (3)	外出の頻度が少ない状況にある人にその理由を問うことについて、不登校や職場になじめない等の選択肢以外に、フリーランス等で自宅にはほばいる方もいる状況をふまえた選択肢を加えてはどうか。	ご意見をふまえ、選択肢を追加する。	選択肢に次の1項目を追加 「15. 在宅で仕事を行うようになったこと」
	上記以外		〈子どもや子育て家庭等の実情等を踏まえた選択肢の追加・修正のご意見〉 (例) ・毎日の生活でどのようなときに楽しいと感じるかを子どもに問う質問の選択肢に「ゲーム」を追加 ・最後の自由記述欄において、保護者の不安な気持ちを打ち明けられるような文言を追加 ・子どもとの関わりの中で家庭で心がけていることを問う質問の選択肢に「悩みを聴く」「褒める」を追加 ・離婚相手と子どもの養育費の取り決め及び受け取りをしているか問う質問において、「養育費の取り決めをしているが、受け取っていない」の選択肢に「支払いが滞っている」を追加  など	ご意見をふまえ、選択肢を追加する。	調査票参照
構成の修正	A調査	表紙	「妊娠・出産から乳幼児・学齢期・青少年期に至る切れ目のない支援を総合的に推進する」ことを趣旨とする「堺市子ども計画」を策定するために行う調査であることを冒頭に記載してはどうか。アンケート調査は周知の側面もあるため、堺市の今後の取組について期待をもってアンケートに答えてもらえるよう工夫するべき。	A調査の調査票表紙に、本市が目指すべき子育て支援についての記載を追加。（B調査・C調査も同様）	調査票参照
	上記以外		〈回答対象者を明確にする、質問の流れを良くするための修正のご意見〉 (例) ・質問文に回答対象者（または対象外の者）を追記 ・質問順の入れ替え	ご意見をふまえ、説明を追記及び質問順を入れ替え。	調査票参照

レイ の イ ア 修 正 ウ ト	B調査（子ども用）	表紙・全体	子どもにも答えようと思ってもらうためにも、子ども用の調査票の表紙を親しみやすくするべき。また、小学5年生も対象になっているため、ふりがなをふるべきだと思う。	表紙にもイラストを追加し、柔らかい文章に修正。 B調査票（子ども用）にふりがなを記載。	調査票参照
表 現 の 修 正	全般	<p>〈子どもを含む回答者に伝わりやすく、やさしい表現とするための修正のご意見〉 （例）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・選択肢の「まあまあ」という表現がおかしい。</li> <li>・「結構です」→「大丈夫です」「非常に」→「とても」</li> <li>・「いつごろから授業がわからないことがあるようになりましたか。」の表現が分かりにくい。</li> </ul> <p style="text-align: right;">など</p>	ご意見をふまえ、表現を修正。	調査票参照	
そ の 他	全般	<p>①調査に協力的な方だけが回答するため、十分なデータがとれないのではないかと懸念する。</p> <p>②本来意見を聴取すべきである生活が困難な家庭ほど回収率が低くなってしまっているのではないかと懸念する。</p> <p>③読み書きが苦手な子どもは回答が難しいのではないかと懸念する。</p>	<p>①②A・B調査の前回調査時の回収率は以下のとおり。 B調査の回収率は低いものの、調査統計上、信頼性の高いサンプル数は確保できており、今回調査においても、一定精度の高いデータを取ることが可能と考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・A調査の前回調査時（平成30年度）の回収率 （就学前児童調査）回収率：53.8% （就学児童調査）回収率：54.0%</li> <li>・B調査の前回調査時（平成28年度）の回収率 保護者回収率：43.6% 子ども回収率：38.1%</li> </ul> <p>③本調査は無作為抽出によるものであることから、そのような方が対象に含まれる可能性があることは認識しており、ふりがなを振る等の対応は行っている。一方、その上でも回答が難しい方には個別の事情に応じたフォローが必要と考えており、まずは調査担当課へお問い合わせいただけるよう、B調査（子ども用）にイラストを交えたメッセージを追加する。</p> <p>今後、個別事業においてニーズの把握をする際には、どのような手法が適切か等引き続き検討をしていく。</p>	③調査票参照	

上記のほか、誤記の修正や表現の統一等、委員からいただいた様々な意見についても、各調査票に反映しています。